

# 常任委員会の審査から

## 総務企画委員会

**新たな県の総合計画を  
どのように推進していくのか  
指標の進捗管理に努めながら  
関係部局と連携して取り組んでいく**

**問** 議会の調査特別委員会でも議論を行った、新たな県の総合計画が策定されようとしている。今後、計画を庁内でのように推進していくのか。

**答** 計画に記載した取り組みの推進については、PDCAサイクルを意識しながら、施策の目標となる指標の着実な進捗管理に努めていく。庁内の体制については今後の検討になるが、関係部局としっかりと連携して取り組んでいく。

**問** タンDEM自転車※の公道走行については、鹿児島県で解禁されるなど全国的な流れであると考え。本県でも、タンDEM自転車の公道走行の解禁を求めるが、所見は。

**答** タンDEM自転車による走行は、多様なサイクリングの楽しみ方の一つと認識している。公道走行の解禁に向けて、警察でも検討を進めており、できるだけ早い解禁を目指し、環境を整えていきたい。

**問** 議員提案条例には県民の意見が広く反映されている。その制定を踏まえた対応として、予算上も重きを置いてほしいと考えるが、所見は。

**答** 議員から提案をいただいた条例であり、執行部として



自転車歩行者専用道路でのタンDEM走行

も大変重く受け止めている。これまでも、野生鳥獣被害防止対策条例やがんと向き合うための県民診療条例の制定を受け、予算増額や補助制度新設などの対応を行っている。

**問** 来年度の予算については、総額を増やしても、県民が「新しい茨城」を実感できるものにしてほしいと考えるが、予算編成に当たっての方針は。

**答** 新しい茨城づくりに向けて、PDCAサイクルを回しながら施策の「選択と集中」を図っていく。人口減少などを念頭に、将来の財政状況を見据えながらも、積極果敢に挑戦できる予算編成に努める。(ほかに、公共交通空白地域の解消、市町村への権限移譲なども質問)

## 防災環境産業委員会

**太陽光発電設備の確実な  
撤去・処分に向けた対応は  
国に対し必要な法制度の創設を  
求めている**

**問** 太陽光発電事業の終了後にパネルなどの大量の設備が放置されることが危惧される。事業終了後の設備の確実な撤去・処分に向け、本委員会も積極的な対応が必要と考える。これまでの県の対応は。

**答** 事業終了に備え、撤去などの費用を担保する制度が望ましい。このため、国に対し、事業者が撤去・処分費用の積み立てなどを義務付ける法制度の創設を求めている。国からは、今年度中に結論を出すことを目指すと聞いている。

**問** 指定避難所の立地・住環境について、市町村へ調査を依頼しているとのことだが、和式・洋式のトイレの数も把握すべきと考える。所見は。

**答** 現在、トイレやエアコンの数、非常用発電機の有無、食料や毛布の備蓄状況などを調査している。今後の市町村へのヒアリングで、トイレの和式・洋式の数も確認する。

**問** 人口減少に歯止めをかけるために、どのような考えで産業振興に取り組むのか。

**答** 「本社機能移転強化促進事業」については、新しい視点で、若者を引き付けるための企業誘致に戦略的に取り組む。



県内に設置されている太陽光発電施設

む。また、従来から頑張ってきた中小企業の振興も大切である。両方の視点を持ち、産業振興にしっかりと取り組む。

**問** 「宇宙ビジネス支援事業補助金」の応募件数が数件であり、宇宙ビジネスを目指す企業が少なく感じている。参入拡大に向けた取り組みは。

**答** 宇宙ビジネスはなじみの薄い分野であるため、機運醸成が重要と考えている。そのため、「いばらき宇宙ビジネスサミット」の開催などにより、情報発信に努める。また、コーディネートによる企業訪問などを実施し、宇宙ビジネスへの参入を促進していく。(ほかに、世界湖沼会議を踏まえた今後の対応、商店街のぎわいづくりなども質問)

## 保健福祉医療委員会

**全国障害者スポーツ大会茨城大会に  
向けた競技力向上の取り組みは  
強化選手を対象に  
強化練習会などを開催している**

**問** 来年度に開催される全国障害者スポーツ大会茨城大会に向けた競技力向上の取り組みは。また、参加者の少ない団体競技の支援の取り組みは。

**答** 強化選手を対象として、強化練習会や記録会を計画的に開催している。また、参加者の少ない団体競技の普及推進や選手の確保に努めてきた。その結果、全ての競技種目でチーム結成ができていく。

**問** 本県における民泊の状況は。また、トラブルなどは発生していないのか。

**答** 平成三十年十月末現在で民泊の届出を四十三件受理した。宿泊者数は六、七月が二百五十名。八、九月が千二百四十名。また、今のところトラブルについては聞いていない。

**問** 重症化した糖尿病患者の医療費は非常に高額である。そのため、予防には治療中断者の抽出や受診勧奨が重要だが、本県の取り組みは。また、県で策定した糖尿病性腎症重症化予防プログラムの概要は。

**答** KDBシステム※から治療中断者の抽出ができるようになったため、市町村を集め周知を図っている。予防プログラムでは、保険者が医療機



強化練習会の様子(陸上競技)

関と連携し、重症化リスクの高い未受診者・治療中断者への受診勧奨などの手順などを示している。

**問** 県立こども病院では先進的なゲノム医療※に取り組んでいるとのことだが、治療法は確立されているのか。

**答** ゲノム医療は取り組みが始まったばかりである。より効果的な治療につながる一方、将来の病気に関連する遺伝子異常が偶然見つかることもあり、患者やその家族への丁寧な説明が必要となる。このため、専門医などの人材の確保・育成が重要である。(ほかに、第四期県立病院改革における経営基盤の安定・強化、県立あすなるの郷の指定管理状況なども質問)

### ことは

※【タンDEM自転車】…複数人が前後に並んで乗ることのできる自転車。  
 ※【KDBシステム】…国保データベースシステム。市町村(保険者)が効果的な保健事業を実施できるよう、国保連合会が特定健診や特定保健指導などの情報を提供するもの。  
 ※【ゲノム医療】…個々人のゲノム情報(遺伝子などの情報)を調べ、その結果を基に、疾患の診断や治療、予防をより効率的・効果的に行うもの。